



初！石川・富山合同オンライン IPE

令和2年度 石川県高度・専門医療人材養成支援事業

子どもをとりまく環境と保健・医療・福祉



報告書



2021年3月21日（日）

13：30～16：30

オンライン（Zoom）

主催：いしかわ多職種連携教育プロジェクト あいまいぴー

とやま多職種連携教育プロジェクト とやまいぴー

目次

1. はじめに	2
・金沢大学 医薬保健学域保健学類 作業療法学専攻 4年 臼井 千尋	
・北陸大学 医療保健学部 關谷 暁子	
・石川県立高松病院（現：石川県立こころの病院） 金沢大学大学院保健学専攻 公衆衛生・在宅看護学分野博士後期課程 1年 大村 裕佳子	
2. 開催概要	3
・日時 場所	
・参加者内訳（ごちゃませグラフ）	
・学習目標	
・当日の流れ	
3. 資料	5
・オープニング	
・アイスブレイク	
・多職種ごちゃませ！質問ワーク	
・ちーちゃんの学び（事前学習）の共有	
・IPEとIPWについて	
・	
4. アンケート結果	15



1. はじめに

令和2年度いしかわ多職種連携教育プロジェクトあいまいびーを開催できましたことをご報告いたします。新型コロナウイルスの影響により年度内の開催が危ぶまれましたが、たくさんの方のご協力により初のオンライン形式で開催することとなりました。大村さん、關谷さんをはじめ実務者の皆さま、学生メンバーの皆さま、とやまいびーの皆さま、参加者の皆さま、関わってくださった皆さまに心より感謝申し上げます。今回はテーマを「子どもを取り巻く環境と保健・医療・福祉」とさせていただきました。日々の生活の中で、成長する過程で生きづらさを感じる人に私はどう関わればよいのかと感じる出来事があり、多職種で考えてみたいという思いから今回の企画がスタートしました。企画を通して、医療者としてだけでなくひとりの地域住民として様々な立場から考えることの大切さに気がつきました。また、本人や家族の「こうありたい」を支える方法に1つの正解はなく、ともに考え続けることが重要であると学びました。地域の一員として「こうありたい」という思いに寄り添い、より良い方法を考え続けるためには多職種の連携が必要だと強く感じます。あいまいびーでは、今の自分の視点を大切にしながら出会い学ぶことができる場だと思います。これからも、今の自分にだからこそできることを考え、その人らしい生活を支えていけるように学び続けたいと思います。

金沢大学 作業療法専攻 4年 臼井千尋

「発達に関してなんらかの障害や生きづらさを抱える子供や家族に対して、自分には何ができるのかな」という「もやもや」から、ちーちゃんの学びの旅は始まります。3度の事前学習で、医療的ケア児を育てるお母さんや小児訪問看護師さんにお話をうかがうとともに、あいまいびー・とやまいびーのメンバーが対話を重ね、3月21日のイベントをみんなで作ってきました。その中でちーちゃんの「もやもや」が少しずつ輪郭を帯びてきます。メンバーそれぞれが、自分の過去の経験や今の暮らしの中にある課題意識をちーちゃんの「もやもや」に重ねていきます。イベント当日を迎えるころには、ちーちゃんの「もやもや」は私たちみんなの「もやもや」になっていました。今回、私は「質問づくり」という学習形態の進行と、ZoomやGoogleスプレッドシートを活用したオンラインワークショップの環境調整という形で関わらせてもらいました。コロナ禍で対面での活動が大きく制限される中でも、人々がフラットに深く対話し、お互いから学び合うことができるという手応えは、今後のあいまいびーの活動に大きな可能性を抱かせてくれるものでした。本企画に関わってくれたすべての方々から心からの賛辞とリスペクトを送ります。

北陸大学 医療保健学部 關谷暁子 關谷暁子

前回のあいまいびーの開催から約一年…思いもよらないパンデミックの中、ちーちゃんをはじめとする仲間とともに「子ども」をテーマとしたIPEイベントについて構想を練ってきました。あいまいびーは「一堂に介する」ことを大切にしてきたため、それが叶わない状況で、双方向性のあるIPEイベントができるのか…？と大変戸惑いました。しかし、せきやさんという心強い新メンバーの加入により、オンラインツールの活用に挑戦しながら、改めてIPEとは何か、学生時代からの継続的なIPEの意義とは何か、IPWにどのような影響があるのか…などについて、学び直すことができました。異なる価値観を持つ多様な人たちが、相互作用しながら自他について知り、柔軟に能動的に、多主体で水平的に連携・協働する…日頃からのコミュニケーションの重要性、一目置かれる関係性の構築について、体験できました。実りある準備期間を経て、石川県高度・専門医療人材養成支援事業の助成を受け、とやまいびーとの合同開催にて初めてのオンラインIPEを開催できたことを、とても嬉しく思います。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

石川県立高松病院（現：石川県立こころの病院）

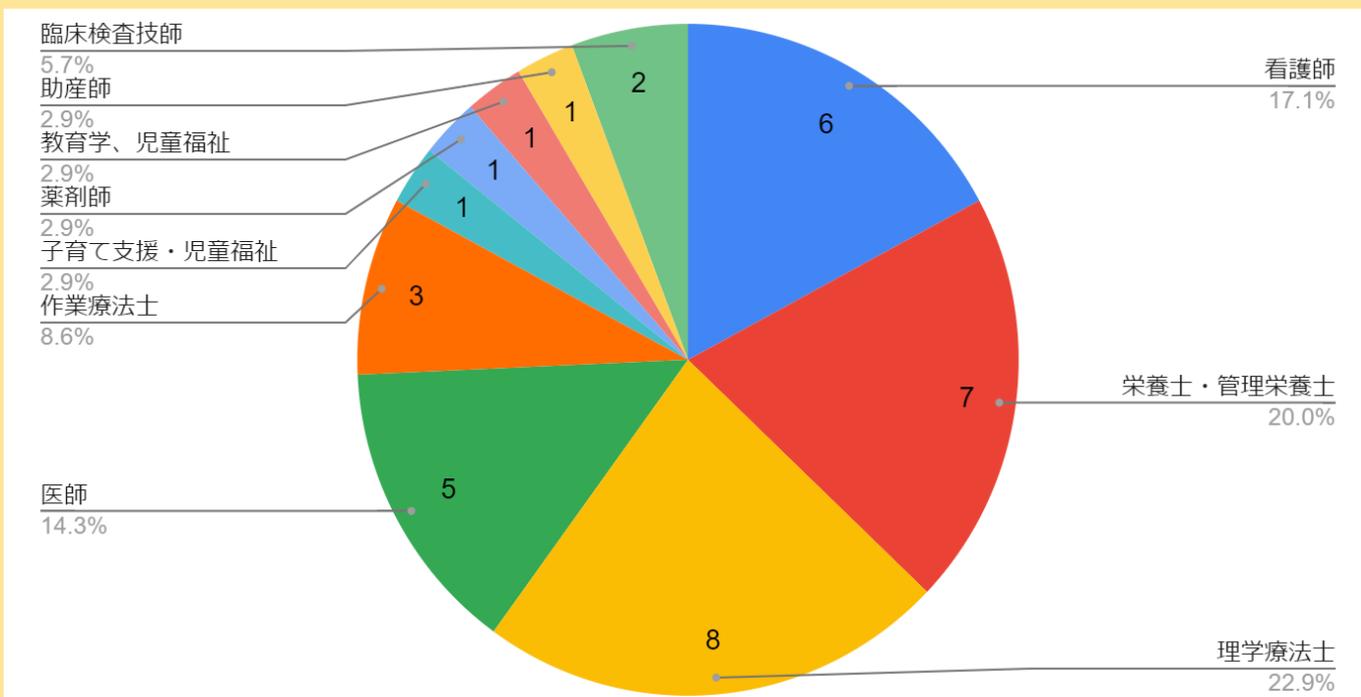
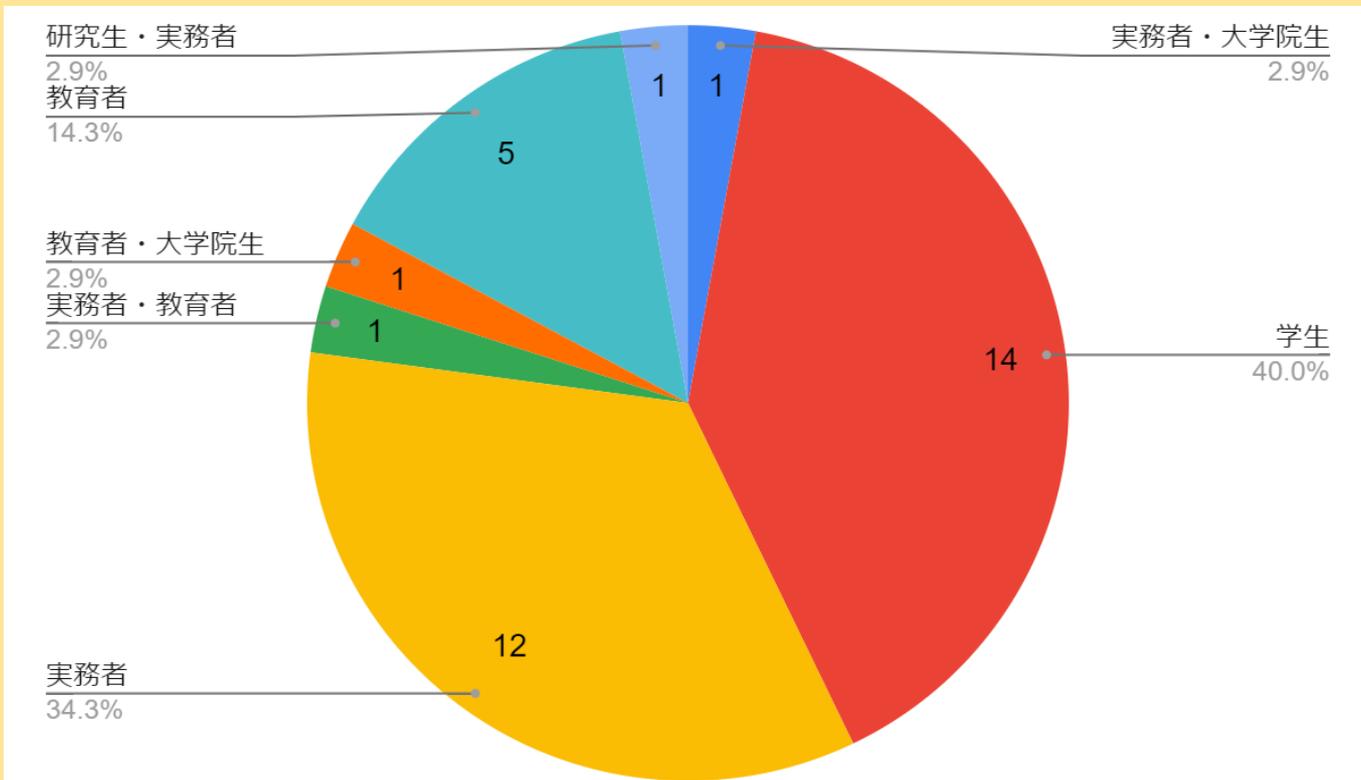
金沢大学大学院保健学専攻 公衆衛生・在宅看護学分野博士後期課程1年 大村裕佳子

2. 開催概要

・日時：2021年3月21日（日） 13:30～16:30 場所：オンライン Zoom

・参加者数：34名

・参加者内訳



多様な学生や実務者、教員の方々にご参加いただきました！

本日の学習目標



『子どもをとりまく環境と保健・医療・福祉』について、
多職種での学び合いを通して自分自身、あるいは自職種が、

- ①「今後さらに深く考えたい課題」を見出すことができる
- ②「今後実行したいこと」を見出すことができる

本日のながれ

時間	内容
13:30 ~ 13:35 (5)	オープニング
13:35 ~ 13:55 (20)	アイスブレイク 自己紹介ラッシュ!! 5人×5回
13:55 ~ 14:10 (15)	ごちゃませグラフとお約束・まいぶるプロジェクトについて
14:10 ~ 15:35 (85)	GS①多職種ごちゃませ! 質問ワーク(60分)・休憩10分・ 全体で共有(15分)
15:35 ~ 16:00 (25)	事前学習の共有・IPEとIPWについて
16:00 ~ 16:25 (25)	GS②きょうの振り返りワーク(20分)・コメント入力(5分) slido で アンケート・次回予告・写真撮影 クロージング→交流会(30分程度)

- ・途中の入退室、耳だけ参加OK! お子様の登場大歓迎!!
- ・↑の方が戻られたら、それまでの情報の共有をおねがいします

3. 資料

・オープニング

初！富山・石川合同 オンラインIPE

とやま多職種連携教育プロジェクト



とやまいびー

いしかわ多職種連携教育プロジェクト



あいまいびー
Ishikawa More Amazing IPE

「子どもをとりまく環境と保健・医療・福祉」

2021年3月21日(日) 13:30~16:30

**主催:とやま多職種連携教育プロジェクト とやまいびー
いしかわ多職種連携教育プロジェクト あいまいびー**

令和2年度 石川県高度・専門医療人材養成支援事業



とやまいびープロジェクト
More Amazing InterProfessional Learning & Education

学生ディレクター

臼井 千尋 金沢大学 作業療法専攻 3年

学生スタッフ

★**戸上 央** 金沢大学 看護専攻 4年
高木 咲良 金沢大学 医学専攻 2年
赤松 洋光 金沢大学 医学専攻 6年

★ファシリテーター

アソシエイトディレクター

大村 裕佳子 あいまいびー 看護師 **関谷 暁子** あいまいびー 臨床検査技師 ★

とやまいびースタッフ

★**清水 洋介** とやまいびー代表 家庭医 ★**堀田 麻緒** とやまいびー 理学療法士
★**豆本 真理恵** とやまいびー 管理栄養士 ★**村山 大輔** とやまいびー 薬剤師
伊藤 達也 とやまいびー 専門看護師 **木戸 敏喜** とやまいびー 内科医

・アイスブレイク

自己紹介ラッシュ!!!

今日参加して頂いているメンバー同士で自己紹介をしていただきます

- ・ニックネームに悩んだら、苗字に「さん」でかまいません★
- ・お名前、職種(専攻)、「子どもの頃憧れたもの」についてテンポよく…

1セッション:5人(4分)×5回=全員と自己紹介完了♪

いってらっしゃい!



・多職種ごちゃまぜ! 質問ワーク

<架空事例> 舞降家(まいふるけ) …とある県の中心部に暮らす4人家族。



母 舞降あき 32歳 元保育士

元来明るく体力にも自信があり、どんなに辛くてもやるべきことはやる性格。保育士の仕事にとっても誇りを持っていた。長女を出産後に仕事復帰を希望し、市や保育園の担当者と何度も話したが、前例がないことを理由にどこにも入園できなかった。その際、何故そこまでして働きたいのか、母の存在が1番重要だと度々言われ、今も強く心に残っている。結婚前は他県で医療的ケアの必要な児童も保育していたため、体制の地域差に驚いた。長女も長男もたくさんの人と関わり、強みを生かして充実した人生を歩んで欲しいと思っている。夫は頼んだことはやってくれるが、「準備から後片付けまでやって欲しい」「言わなくても動いて欲しい」と内心思っている。長女のケアを任せるのは不安で、万が一何かあってはいけぬ、自分が全てやるべきだと思っている。長男には我慢ばかりさせており申し訳ないが、イヤイヤ期が激しく姉のケア用品にイタズラをするため、1歳半頃よりキツク叱ることが増えていった。

父 舞降ようた 36歳 WEBデザイナー (在宅勤務)

元々は大手情報会社勤務で超激務だったが、長女が10カ月の時に転職。収入は半減したが、良い選択だったと思っている。長女の誕生に立ち合い人生で感じたことのない感動を感じたのもつかの間、ドラマのような心肺蘇生が繰り返され、立ち尽くしたあの瞬間が鮮明に残っている。妻は保育士で、真面目で愛情深い性格であり、吸痰や経管栄養にもテキパキと対応していたので安心して全て任せていた。長女が退院して3ヶ月が経った頃、妻の様子がおかしいと気付いた。家事育児はしているが表情がうつろで、どこかへ電話しては涙していた。地区担当の保健師が訪問し、産後うつの可能性が高いと判断され、必ず側に着いているよう助言された。期間が過ぎていたため助成が受けられず、自費で1週間の産後ケアを利用し、(一泊2万5千円) 乗り切ることができた。もう少し発見が遅れていたらと思うと、後悔している。何でも協力したいが、以前妻の外出時に長女が誤嚥し肺炎で入院したことをきっかけに、頼られなくなった。どう声をかけて良いのかわからない。掃除・洗濯と長男の送迎を担っているが、仕事のことでいっぱいになると家事を後回しにしがち。

長女 舞降ゆか 6歳2ヶ月

在胎39週で経膈分娩にて2300gで出生。（低出生体重児）出生後間もなく心肺停止となり、NICUに6ヶ月間入院していた。原因は不明で、低酸素脳症の影響で現在も気管切開と経鼻からの経管栄養を行なっている。入院中にてんかん発作が起こったが、その後デパケンシロップの内服により発作はない。聴力障がいがあり、補聴器を使用している。かなり近くで会話しないと聞き取りにくい。手話は習得済み。知的な発達は年齢相当で、自力で排痰できるようになってきたため、吸引は3～4時間に一回程度。右不全麻痺はあるが歩行は自立しており、小学生になることを楽しみにしている。週に2回はデイサービス、週に3回は母と県のリハビリテーションセンターに通っている。食べることが大好きで食事訓練が楽しみだが、誤嚥し一度肺炎になってからは口腔ケアが中心となり同じゼリーばかりでさみしい。両親や弟が自分のせいで苦しんでいることが辛く、沢山勉強してお金持ちになりたいと思っている。

長男 舞降ひろ 3歳4ヶ月

在胎38週で経膈分娩にて3000gで出生。母は姉の支援を行う必要があるため、生後2ヶ月から父の送迎で保育園へ通園している。マイペースで一人遊びが得意で、お姉ちゃんが好き。好奇心旺盛で何にでも触れたがるため、母によく怒られている。父は好きだが、母に甘えたい思いが強いが、母は自分が嫌いなのではないかと感じている。

来年度からゆかさんは小学生！とっても楽しみにしています。

特別支援学校か公立小学校（支援学級・通常学級）かを検討中で、受け入れが可能そう（話を聞いてくれた）なところはどこも遠方のためスクールバスの対象です。担当者からは、「気管切開がある場合バスには乗れません。ご家族での送迎をお願いします」と言われました。理由は、医療者が乗車していないため気管切開のカニューレが万が一抜けた場合の対応ができない、吸引ができないためとのことでした。

また、特別支援学校からは、慣れるまでは授業中も母の付き添いをお願いします、その後も経管栄養の注入に来て下さいと言われていました。公立小学校からは、前例がなく看護師が配置できるかはギリギリまで分かりませんと言われていました。一番前の席でも授業の内容を全て聞き取ることは難しいため、スクールサポーターの配置を希望しましたが、「うちの市では養成していませんので…」と返答されました。

母は送迎も付き添いも自分がする！と考えていますが、心身の疲労が蓄積しており、もしもの時の頼り先がなく不安に思っています。大学への進学などを考えると共働きが理想ですが、どうしたら良いのか分からず悩んでいます。

【5つのステップ】

- ① 「お題（事例）」の共有
- ② 質問を出し合う
- ③ 質問を分類・変換する
- ④ 優先順位をつける
- ⑤ 答えを探る

質問を出し合おう



「進行役」の進行にしたがって、「質問」を出しましょう

- ① 全員、できるだけたくさんの質問を出しましょう
- ② 質問について話し合ったり、評価したり、質問の答えを考えたりは**しません**
- ③ 意見や主張は疑問文に直しましょう
- ④ 「進行役」は質問を**発言の通りに**入力しましょう

質問を分類しよう

「閉じた質問」：△

- 「はい」か「いいえ」ないし一つの単語で答えられる

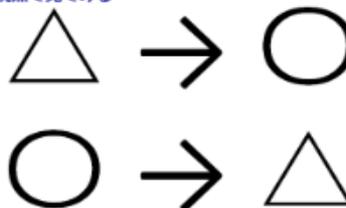
「開いた質問」：○

- 長い説明が必要

リストアップされた質問を分類しましょう

質問を書き換えよう

異なる視点で見てみる



「進行役」は質問を**発言の通りに**書き出しましょう。

新たな質問が浮かんだら書き加えてもOKです。

「最も重要な質問」をグループで決めよう



- ① 「進行役」の進行にしたがって、それぞれが「重要」と思う質問をメンバーに伝えましょう
- ② 「進行役」はメンバーが「重要」と思った質問に★印をつけましょう
- ③ 全員が話し終わったら、グループで「最も重要」と思う質問を1つ決めましょう

※多数決ですぐに決めてしまわず、「その質問はなぜ重要なのか」を話し合い、メンバー全員が納得できる質問を選びましょう。

グループ1

メンバー：★まおにゃん（理） さたけしんじ（理） やまゆう（栄） あきこ（看） さくら（医）

問い	分類（○△）	変換（○→△または△→○）
①お父さんとお母さんはどのくらい話し合ったのかな★★★	△	どうしたらお母さん・お父さんはそれぞれの気持ちを分かってもらえるでしょうか
②ゆかさんのケアは具体的には何をすればいいのかな	○	ゆかさんの吸引は必要ですか
③障害児のケアの地域差はどうしたら解決できるのかな★★	○	
④父は転職によりどのくらい時間ができ、ケアを手伝えるようになったのかな	○	
⑤ひろくんへの支援は何かないかな★	○	
⑥実際の障害児への支援体制の強い地域にある共通点は何かな★★	○	地域に共通点はあるのかな
⑦あきさんは仲間とか他に他にあるのかな	△	どこに行けばサポートや仲間となってくれる人に会えますか★★★
⑧ゆかさんは本当に食べられないのかな★	△	嚥下障害に対してどのような対応が必要ですか
⑨ゆかさんはADL（日常生活）トイレ、お風呂はどうなのかな★	○	ゆかさんの自立できていますか・介助が必要ですか
⑩どのくらいサービスを受けられれば働けるのかな★	○	
⑪ゆかさんは、どんなリハビリを受けているのかな	○	それぞれの動作に対して、リハビリを受けているのかな
⑫前例が無いので、断られるのは、どうしたらいいのかな	○	前例が無いと断らなければいけないのですか
【グループ1の選んだ「もっとも重要な質問」】		
①お父さんとお母さんはどのくらい話し合ったのかな★★★		
どこに行けばサポートや仲間となってくれる人に会えますか★★★ ※似たような境遇の人と会えば、対策など考えるなかですくわれるんじゃないか		

グループ2

メンバー：★まめ（栄） さおり（理） たじ（理） あゆむ（看） やすひろ（子） なかくら氏（検）

問い	分類（○△）	変換（○→△または△→○）
もしの時の頼り先は？	△	どうしたら頼れる先を見つけられるか？
特別支援学校にN s はいないか？	△	どのような職種の方がおられるか？
家族がどの状態が幸せか？	○	お母さんのストレスが軽減できれば家族全体が幸せになるか？
あきさんとようたさんの子育ての認識のずれ、認識の共有ができていますか？	△	認識のずれはどのようにしたら解消できるのか？
ゆかさんがお父さんやお母さんに自分の意志を伝えられているか？	△	ゆかさんがどのように自分の意志を伝えているか？
あきさんがどうしてそこまで保育士の仕事に復帰したいか？	○	あきさんは保育士をやりたいですか？
あきさんがやりたいことは？お母さんが望んでいるものは？	○	
家庭環境を復帰したい？	△	どのように家庭環境をよくしたいですか？
スクールサポーターの配置基準は？	△○	どのような基準でスクールサポーターを配置していますか？
ひろくんに対して両親がどう思っているのか？	○	両親がひろくんが好きか？
祖父母に頼れない？	○	頼れる祖父母はいないのか？
産後うつ、育児に対する対応ができていないのでは？	△○	

グループ3

メンバー：★ゆかこさん（看） 川井（理） りせ（栄） しゅん（教） とっし〜（医）

問い	分類（△○）	変換（○→△または△→○）
あきさんが長女出産後に仕事復帰を希望したが「前例がないから」と断られたのは何故か？	○	本当に前例はないのか？
ゆかさんは右不全麻痺はあるが歩行は自立している。実際の麻痺の状態は？★	○	
ゆかさんゼリーばかりで寂しいと言っているが、好きな食べ物は何か？	○△	ゆかさんはゼリー以外は食べられないのですか？
ゆかさんについて小学校入学後に放課後等デイサービス等の利用について検討しているのか？	○△	
公立学校か支援学校かどちらに進みたいのか	○△	どちらに進みたいのか？△
進路について、家族の中でのそれぞれの希望は？★★	○	これまでに家族でゆかさんの進路について考えたことはあるか？
ようたさんはゆかさんの誤嚥がトラウマ...現在の不安はどこからきているのか？★	○	
特別支援学校の付き添いは「母」でなくてははいけないのか？	△	母以外の人が付き添えるようにするにはどうすれば良いだろうか？
ひろくんは誰とどんな遊びをするのが好きですか？	○	
ようたさんは妻が産後うつ時に仕事をどうしたのか？	○	ようたさんは妻が産後うつ時仕事を休んで側に付き添ったのか？
公立小学校から「看護師の配置はギリギリまでわかりません」と対応したのは誰？	○△	

グループ4

メンバー：★おーちゃん（看） ななみん（理） きたさん（栄） のぐっち（医） まゆ（作）

問い	分類 (○△)	変換 (○→△または△→○)
なぜここに住んでいるのでしょうか？	○	住むところは移動できますか？（引っ越しは可能ですか？）
ゆかちゃんの聴力しょうがいはいはてんかん発作が原因？	△	
ゆかちゃんはどんなりハピリをしているのですか？	○	（吸引を定期的に行っている）嚥下機能訓練をしていますか？
舞降家以外の同じ境遇の家族との関わる場は？ ★★	△	どのような形で同じ境遇の方たちとの関わりがあればよりよいと思いますか？
お父さんのウェブデザイナーはどんな仕事をしているの？	○	仕事（ウェブ）で誰かに相談することはできますか？デスクワークですか？（どこでも仕事は出来ますか？）
旦那さんはどうして転職したの？	○	長女が生まれたのがきっかけで転職したのですか？
近隣のスクールサポーターの養成はどうなっている？	○	
特別支援学校ってどんな学校？ ★	○	特別支援学校は障害があることもが通う学校ですか？
どんな医療サービスを受けているのですか？ ★★	○	医療サービスを受けていますか？訪問サービスを利用していますか？
教育委員会には相談されていますか？	△	教育委員会は何をしていますか？
市内に小学校っていくつあるのですか？	△	
鬱傾向や育児がワンオペになっているから支援が必要では？		
あきさんが相談できる場、提案できる場所が必要では？ ★		

グループ5

メンバー：★きよっち（医） うわじ（理） あおい（栄2） ようこさん（栄・教員） ちひろ（作） みなみ（助）

問い	分類 (○△)	変換 (○→△または△→○)
県の田舎だったら対応はちがいますか？	△	対応にはどんなものがありますか？
この家族それぞれの気持ちや心のつながる方法はありますか？ ★	△	どうすれば家族のこころがつながりますか？ ★★★
産後ケアってどんなことはしたんでしょうか？	○	産後のケアっていうものはありますか？産後ケアって誰でもうけられますか？産後ケアっていくらかかるものですか？
特別支援学校について、田舎と都会で違いはあるのか？	△	田舎と都会でどう違いますか？
お父さんの相談先は確保できていますか？	△	お父さんの相談先はどこでできますか？お父さんはどう感じていますか？ ★
ゆかさんの咀嚼嚥下の発達はどうなんでしょうか？ ★	○	ゆかさんの咀嚼の発達は遅れていますか？
ひろくんの保育所での性格はどうなんでしょうか？ ★	○	保育所での性格は活発ですか？おとなしいですか？
特別支援学校と公立学校の入校基準はなにか？ ★	○	特別支援学校と公立学校の入校基準に違いがありますか？
歩行が自立しているのとしていないので、受けられる支援がどうちがうのか？	○	歩行自立していないと受けられる支援がありますか？
子供への願いの明確なところは、保育士だからなのか、あきさんの個性なのか？	△	何が原因で、子供への願いが明確になったのか？ ★

グループ6

メンバー：★ムラヤマ（薬） スプリンター（理） しおり（栄） やっちゃん（看） さっさー（作）

問い	分類 (○△)	変換 (○→△または△→○)
★もしもの頼り先はどんな頼り先があればよいですか？	○	頼る先があったら利用しますか？
もしもの時にどういうところがあるのか？	○	もしもの時に頼れるところがあるのか？
妻にどのような声掛けをすればよいのかな？	○	妻に声掛けをしたいと思いますか？
市役所など電話で相談できるところがないのかな？	△	★電話で相談するとしたらどういったところに相談すればよい？
ゆかちゃんはどうなったらゼリー以外を食べられるようになるのか？	○	ゼリー以外食べられませんか？
ひろ君のお母さんに甘えたい気持ちが強いが、どうやったら甘えられるようになるのかな？	○	ゆかちゃんの面倒を旦那さんに任せられないか？
嚥下機能の問題としてゼリーしか食べられないの？	△	★★ゼリーしか食べられない原因にはどのようなものがありますか？
長女のケアを任せる点についての具体的な不安点はなにか？	○	
★★夫婦で話し合う時間をとれているのか？	△	
長男にきつくしかる原因はほかにもあるか？	○	
★ゆかちゃんの通いたい小学校の本人希望は？	○	
特別支援学校での付き添いは他の児童も同じか？	△	
公立小学校で看護師を配置している学校はあるか？	△	
★スクールサポーター以外の受け入れ方法はありますか？	△	

・ちーちゃんの学び（事前学習）の共有

まいぴーと出会う前

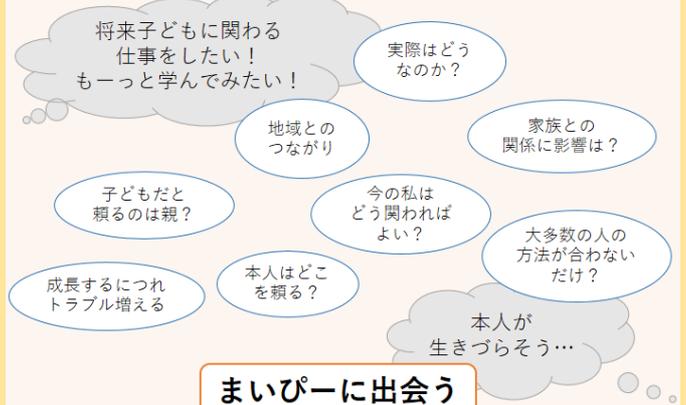
高2 「子どもに関わる仕事がしたいな～」
 「生きづらさを感じる人に私はどう関わればいい？」
 →大学入学前から…進路にも影響

大学進学 「もやもや」は変わらず…
 今の自分には何もできないし実習に行くのも不安だな

2年生
2月 あいまいぴーに初参加！
 (きっかけは先輩に誘っていただいたことでした～)

学び合うってなんか楽しいかもしれない！
 いろんな人の話がきけて面白い！

私が日頃から感じていたもやもや



まいぴーに出会う

まいぴーメンバーとのミーティング

どこの視点に立てばいいの？
 地域住民の一人として？医療者として？

子どもに関わる機会が少ないと想像しづらく、教科書通りに

本人や家族にとって繊細な部分、どう触れていけばいいの？

「障害」や「生きづらさ」を話題にすることが「いけないこと」のように思ってしまう感覚。話題にせず知らないでいることが最も良くないことだとはわかってはいるけど、話題にすることにも後ろめたさみたいなものがある

事前学習へ

3つの事前学習

- ①「医療的ケア児」のニュースをもとに質問ワーク
- ②「子育ての頼り先～いろいろな子どもたちと場所とヒト～」(いわゆる)障がい児と(いわゆる)健常児を育てるお母さんのお話
- ③小児訪問看護師さんにインタビュー

事前学習①「医療的ケア児」のニュース 質問ワーク

近づこうとする、学ぼうとすること

地域住民としての関わり方は？

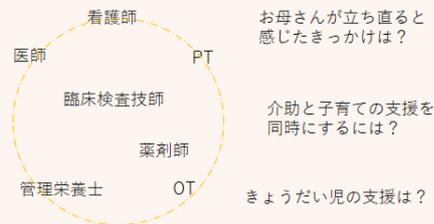
私たちが医療的ケア児について学ぶことが支えになるか

近づくことは負担では？

経済的支援(国、県)あるのかな

制度

施設側が受け入れ拒否する基準は？



旦那さんはこういう場面でのどういう役割が果たせる？

家族・周りの人の支え方

事前学習②「子育ての頼り先～いろいろな子どもたちと場所とヒト～」

(いわゆる)障がい児と(いわゆる)健常児を育てるお母さんのお話

どの立場で考える？

- お話を聞きながらいろんな立場を体感していた
- 完全には立場変換することはできないことをまずは知ろうとする態度は大事…
- 「知ろうとすること」で子どもが頼ることができる大人が増えてほしい → 知りたい、何かできることはないか 安心するとともに繊細だからとっている場合ではない

事前学習③ 小児訪問看護師さんにインタビュー

正しい答えはないから一緒に考えれば良い

- 家族の「こうなってほしい」「こうなりたい」を大事にする
- 正しい答えは無く、その方や子どもさんにとっての正解であれば良い
→その人にとっての幸せだったらいい!
- 「何か答えを示さない」と考えるから難しい、一緒に考えればいい!
→選ぶときに助ける、選んだあとを支える、選べるものを増やせる
関わり方(ここで自職種、多職種の視点)

まなびと気づき

1. ミーティング・事前学習を通して

- 子どもはより柔軟な支援が必要
→子どもの変化は大きく急激!
- 自分の中で特に在宅で高齢者に埋もれてしまっていたことに気づいた
- 支援を必要とする子はどんどん増えているのに支援が足りていない
結果選択肢が病院や施設になる
→今あるものであてはめるのではない、みんなで考え続ける
- 周囲の環境を整えることで、その子の強みを活かした生き方が
できるのでは?

親御さん、私たちの共通の願い

まなびと気づき

2. 大人とちがうところ

- 親が決めなければならないことが多い
↑親のサポートがより必要
 - ・ 選択肢
 - ・ 心理面(今、これから)
 - ・ 経済面
 - ・ 親の社会参加

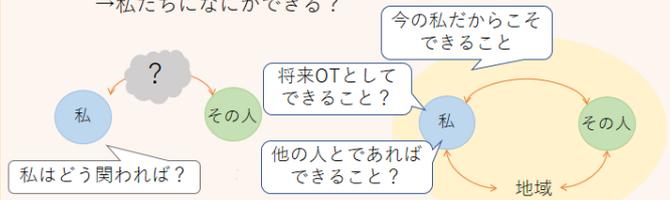
親の価値観に左右される
「本人のため」では
なくなることも…?

- 子どもがすべてを選択できるわけではない
仕方ないところも(“普通”の子もそう)
選択肢は確実に少なくなってしまう→選択肢を増やせるように

あたらしい“もやもや”

地域の一員として暮らしていくこと

「多くの人と出会って地域の一員として育ててほしい」
→私たちになにができる?



一緒に考え続ける

そのときによって考えが変わるのは
当たり前、それでいい!

誰もが暮らしやすくなるには?
どんな地域になれば暮らしやすい?

IPEとIPWについて

多職種協働実践 Interprofessional Work (IPW)

あらゆる状況で最高品質のケアを提供するために、異なる専門分野の複数の専門職が、患者、家族、介護者、コミュニティと連携して包括的サービスを提供すること (WHO, 2010)

多職種連携教育 Interprofessional Education (IPE)

複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶこと

(CAIPE, 2002)

※学生時代: 卒前IPE 実務者: 現任IPE

IPEの現状と課題

- 教育機関で行う資格取得前教育、事業所等が行う現任教育があり、それ以外の学習会などの非公式な教育、学習も重要 (Barr et al., 2005)
- 日本の保健医療福祉職養成施設でIPEを実施している大学は63.6%、養成所は15.2% (松平他, 2018)
- 病院での現任IPEの機会が不足 (藤井, 2017)

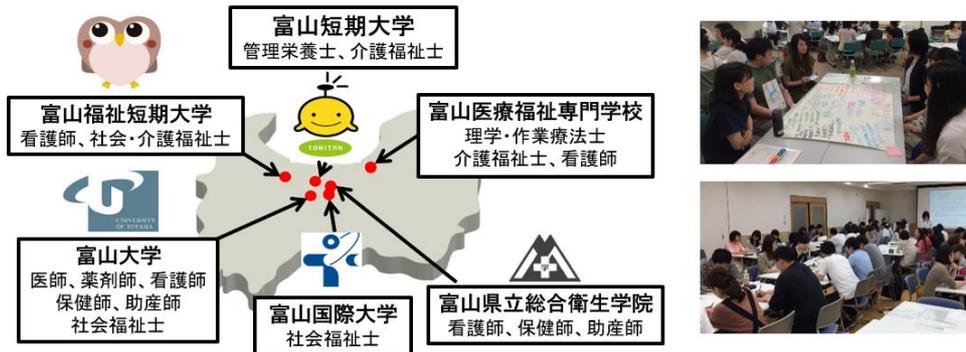
日本では卒前及び現任教育における公式のIPEが十分に整備されていないことが考えられる

- 実装の障壁として、連携施設の確保、カリキュラム・プログラム設計の困難さ、教員・指導者の確保 (春田, 2016)、Hidden Curriculum (公式以外の学習・教育を阻害するもの)が存在する (酒井他, 2018)
- いつどのような形でIPWへの効果が表れるのか明らかとなっておらず、研究に発展させる必要がある (牧野, 2018)

実装の障壁への対応策を検討し、実施の促進と研究による成果の共有が必要である

とやま多職種連携教育プロジェクトとやまいぴー

～多学校の学生主体のサードプレイスでの地域イベント型IPE～



- 職場を越えた自主的な勉強会や学生サークルなどの非公式のIPEは、公式のIPEとの相補的な学習の機会となる (藤井, 2018)

考察

◆多学校の学生主体の地域イベント型IPEの学びとIPWの実践状況について

- ・満足度は高く、対人関係の広がりを感じ、多職種連携コンピテンシーを学んでいた
- ・学びが役に立っていたが、実践現場との差異に葛藤していた
- ・学びにより実践現場の課題が際立ったと感じた者がいた

- IPWに幻滅が生じることでIPEの成果が逆効果となりかねない (朝比奈, 2011)

全員がIPWに必要な能力を学んでいたが、卒前の学びと実践現場の差異は葛藤につながると考える

◆継続的なIPEの必要性について

- ・継続的にIPEに参加・実践している者のIPWの満足度が低く、自らの専門性が不明確だと感じていた
- ・現任IPEの参加経験がない者、現任IPEに満足していない者がいた
- ・就職後にとやまいぴーに参加した者は半数だった

- 様々な学習機会や業務外の活動をIPEの場として捉えなおし、条件を整備すべき (藤井, 2018)

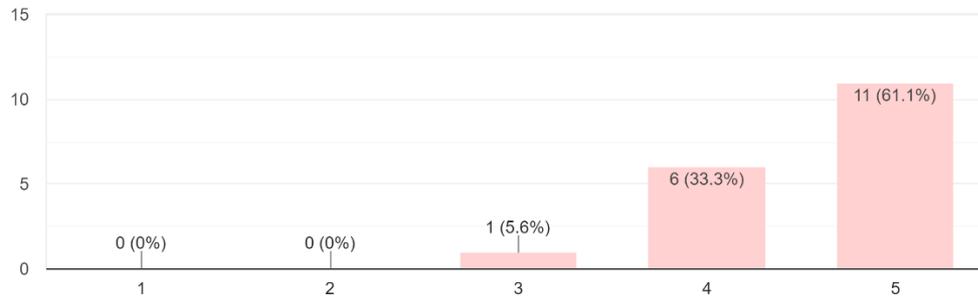
- IPWの経験が多いほど能力が高くなるわけではなく、教育の影響が大きい可能性 (國澤他, 2016)

効果的で持続的なIPEプログラムの開発が必要であり、本研究の成果はその一助となると考える

4. アンケート結果

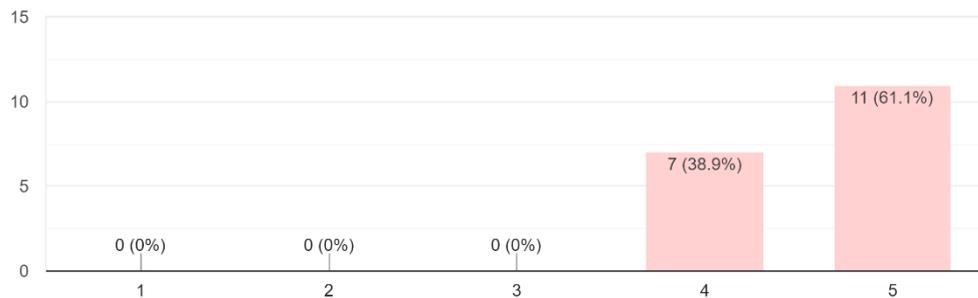
今回の参加でIPE/IPWへの関心は参加前に比べて高まりましたか？

18件の回答



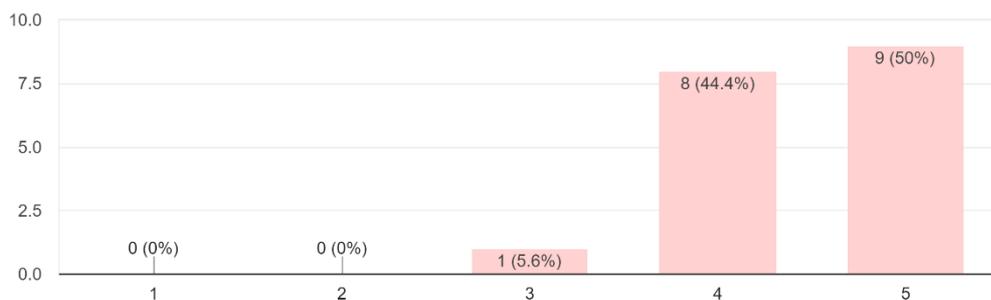
子どもをとりまく環境と保健・医療・福祉への関心は参加前に比べて高まりましたか？

18件の回答



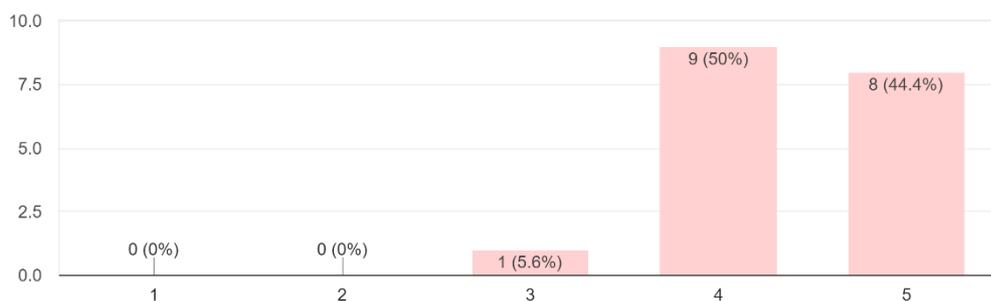
今回の企画により、所属、分野、学年などが異なる人との繋がりは広がりましたか？

18件の回答



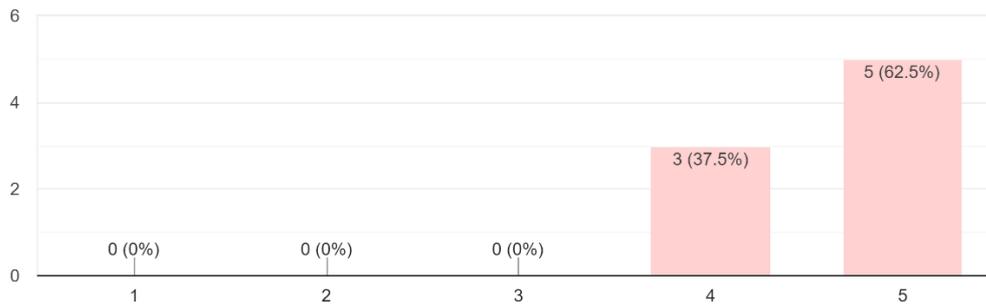
グループワークでは、誰もがその人の立場で自由に発言できる雰囲気がありましたか？

18件の回答



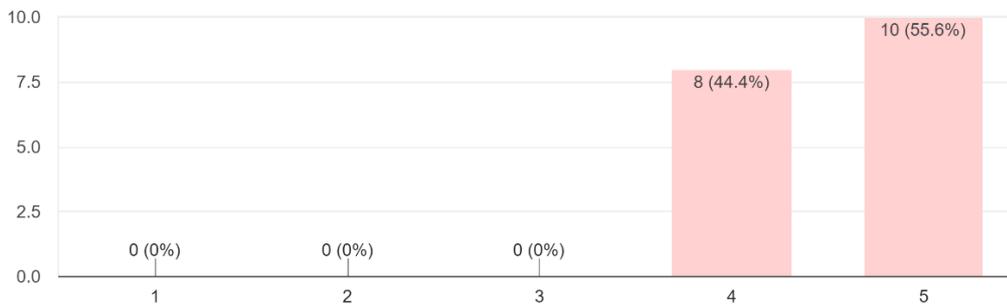
「質問づくりワーク」は、今回の課題を多角的に考える上で有効だったと思いますか？

8件の回答



本日の全体を通しての満足度はどれくらいですか？

18件の回答



「質問づくりワーク」の感想をお聞かせください。

18件の回答

いろいろな視点の話が聞けて学びが多かったです

様々な意見が聞けたので良かったです。

学生にもわかりやすい内容で良かったです。

色々な意見を聞くことができ、良い機会になりました。

様々な方の意見を聞くことができ良かったです。周りの方の意見を否定せず、認め合える場があるのもいいなと思いました。

皆が意見を出せる雰囲気だったからこそ視点の違いが違うことに気付きました。考え、意見がたくさん出たので時間が足りないように感じました。

自分では思いつかない考え方を知れてよかった

話している途中でもセッションが終わるのは良い点もあるし、悪い点でもあると感じた

グループワークの際に進行役の方がとても分かりやすく、スムーズに進めてくれたので発表しやすかったです。

- ・色々な視点で見ることがいかに大切か、引き出しは沢山あることで解決できることを改めて感じさせるとても有意義な研修でした。
- ・事前学習の内容がとても分かりやすく共感致しました。
- ・閉じた質問を開いた質問に置き換えるのが難しかったですがとても勉強になりました。例文がありました。何かコツがあれば教えてください。
 - ・ただの実務者ではありませんが日常業務を淡々とこなすだけの日々が続いており自分の可能性や専門職の持ち味が多職種にどこまで理解してもらえるのかこれからも自分への挑戦と皆様のお役に立てれば幸いです。
- ・今後の企画とても楽しみにしています。

質問の作り方について考え方が広がった。

多方面からの質問がたくさん出てきたように思います。各職種の視点というよりも一個人としての視点からの質問が多くあったと感じました。

年齢や職種の違う方々の意見が聞けたのでとてもいい体験になりました。

質問を作る・共有することで、自分やグループの人の視点がわかる、質問を作り変えることで、別の視点を意識できる、どちらも興味深かったです。事例についてより深く考えられたというか、今ももやもやしています。

意見を質問形式にすることは初めてで難しかったです。

グループ内で、話しやすく面白かった！

今回の企画の内容で、特に印象深く残っていることがあればお聞かせください。よろしければ理由もお願いします。

18件の回答

教員の方からこの企画面白い！と言って頂けたのがうれしかったです

グループセッション

モヤモヤが残りました、

グループワークが印象に残っています。

グループで話し合った後に他のグループの方3人と内容を共有したことです。

初めて、このようなワークを行ったのですが、事例について多方面から考えることができたのでとても良かったです。今後、管理栄養士を取得し、患者様に栄養指導などをする際にも、活用したいと思いました。

色々な意見が出ていて面白かった。個人的に惜しく思うのは、意見の共有だけで終わってしまったこと。解決策の提案などもしてみたかった。

GW1での他グループとの意見交流

家族全員の幸せを考えるのは大切であるが難しく話し合いが必要。

参加者の多様性

最後に自分で会議の部屋を決めて、同じ職種の人たちとお話をできたのがとてもよかったです。もっと聞きたいことがあり、時間が足りませんでした！！

事前学習の内容で「子どもが頼ることができる大人が増えてほしい」、「家族のこうなってほしい、こうなりたいを大事にする」「正解はなくその方や子供にとって正解であればよい」という願いがこもっているところがとても印象的でした。改めて子どもに関わる様々な問題に直面した時の参考にしたいと思います。

企画内容ではないですが、学生が多く参加していて驚きました。

「事例を読んで心が痛くなった、ヒリヒリする感じがした」という感想を持たれている方がいて、そのときの感情を共有することができたということが深く印象に残っています。しっかりとした言葉にする前の段階の感情や考えを共有できるのはこのような場ならではの感覚だと思います。

質問の内容に関連付けて質問を作ること

企画が事前学習からスタートしていること。
学びの中からテーマが深まり方向性が定まっていくのは素晴らしいです。

質問作りワークでその中で重要な質問を他のグループの人に発信するのが印象的でした。

もやもやすることが大事とおっしゃったこと。
とかく正解を求めがちですが、臨床とくに在宅では、患者、家族と一緒にモヤモヤすることが大事だなあと
思うから。かっこよくいうと、ネガティブケイパビリティを育むことが大事っていうのかな。

「質問づくりワーク」や、最後に行った管理栄養士・栄養士グループでの会話が、特に印象に残っています。
質問づくりワークでは、多職種ならではの様々な意見がでており、意見をすることの大切さを改めて感じました。
管理栄養士・栄養士グループでの会話では、以前からお知り合いの方や、初めてお会いする方と、交流ができて、とても良い経験ができました。

各々が個人の専門的知見から物事を見ているのがよく伝わったこと。

学生で答えを求めがちなのでこれからは広い視野を持って生活していきたいです。

意見を出し合って色々な視点から事例について考えることができたため。

自分たちのグループの考えとは違う意見があり、「確かに！」となることがあったため。自分のグループでは家族員個々での質問が多かったが、家族全体、地域全体への質問もあり、いずれも今、これからも考えていかななくてはいけないことだと感じたため。

私たちのグループでは家族の幸せとは何かという事が大切という意見が出て私もそれが大切だと思った。しかし、この事例では全員の幸せを叶えることは難しく誰かが妥協をする必要があるため家族がより良い決断をするためにも話し合いの機会が必要であると思った。私も悩んでいることがあれば一人で考え込むのではなく他かたに頼って利用者さんにより良いものを提供したいと思いました。

様々な職種が集まっているため

時間配分についてご意見があればお聞かせください。

9件の回答

実務者の人のお話を聞くことができる機会は今までになかったので、今日、約10分という短い時間でしたが、いろいろお話を聞くことができよかったです。

ルームでのディスカッションが楽しいので、もう少し時間長めに設定してほしいなあ(回数が少なくなってもいいので)と思いました。

とても、良い時間配分だったと思います。

オンラインでの運営に当たり改善してほしい点、ご要望があればどのようなことでもお聞かせください。

18件の回答

休憩やビデオオフの時間も適宜あり、良かったです。

話をする順番が右端の方と固定になりがちであるため変えていけたらよいかと思います。

ブレイクアウトルームへの割り付けなどで思ったよりも時間がかかったように感じるので、時間配分はもう少し余裕を持たせたほうがよかったと感じた

ブレイクアウトルームが駆使されておりとても有意義でしたのでまた企画お願いします。|

スムーズに運営で来ていたと思います。

ルームの交換で同じ人とあたりやすい

とてもスムーズです。適宜休憩を挟んだり、ビデオオンについて配慮があったりするのが良いと思いました。

ありがとうございました。

運営お疲れ様でした！ファシリテーターと書記は、役割分けれたらよりスムーズになるかもしれませんね。

zoom内の様々な機能を使われており、とても参加しやすい環境でした。ありがとうございました。

今後この学習会に期待することがあれば、どのようなことでもお聞かせください。
(扱ってほしいテーマ、要望、ご意見など)

5件の回答

きょうは子供たちに関係するテーマだったので、次は高齢者の人たちの現状について知りたいです。

精神科における医療体制、認知症患者への医療体制

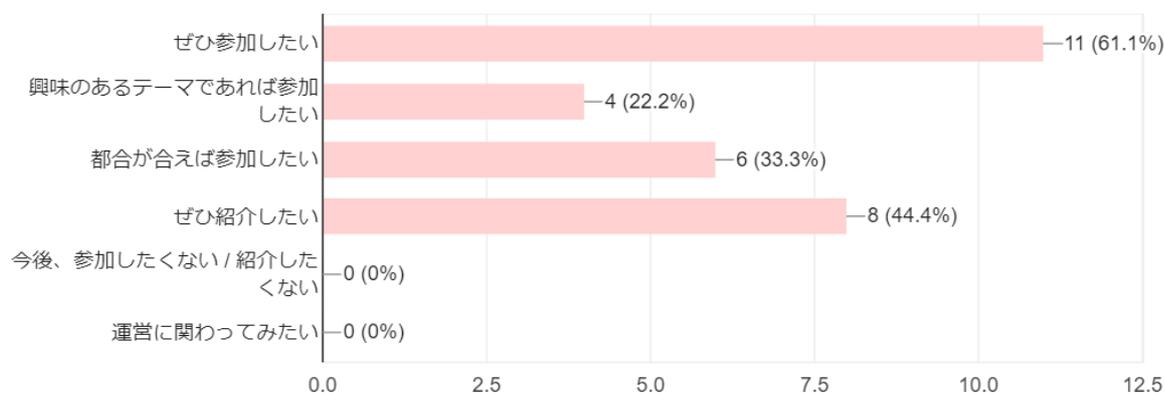
最近の大学教育って、ぶっちゃけどうなの?とか、最近の新人研修って、ぶっちゃけどうなの?って知りたいなあ

コロナが落ち着いたら、以前のように地域の方のお話を聞きたいです。

医療・福祉の分野だけでなく、
行政や教育、ITなど、
より多くの分野が混じると
更に面白い会になるのではないかと
感じました。

今後まいぷるプロジェクトが開催するイベントに参加したいと思いますか？またIPE/IPL
に興味のありそうな方を誘いたいですか？（複数回答可）

18件の回答



令和 2 年度 いしかわ多職種連携教育プロジェクト あいまいびー 報告書

2024 年 3 月 1 日 発行

発行者：臼井 千尋

關谷 暁子

大村 裕佳子

Special Thanks

S・U 様

Y・N 様

<とやま多職種連携教育プロジェクト とやまいびー>

清水 洋介 様

堀田 麻央 様

豆本 真理恵 様

村山 大輔 様

伊藤 達也 様

木戸 敏喜 様

<金沢大学>

医薬保健研究域保健学系 看護科学領域 公衆衛生・在宅看護学分野

塚崎 恵子 教授



まいる
プロジェクト

More Amazing InterProfessional
Learning & Education